

『Veronica・Night　　ゝ淫靡な教育ゝ』

◆出演

城築　海杜　　：　一夜愛　様

◆登場人物

城築　海杜（きづき　かいと）　二十八歳

在籍歴の長いベテラン教育係。
性格は穏やかで優しく、人当たりもよい。
施設出身で、荒れた時期を過ごした後に組織へ所属した。

○トラック1

■洋館・エントランス

〃古い洋館の重厚な扉を開け、主人公が中に入る

※SE…重い木製扉が開く音

※SE…入る足音

※SE…扉が閉まる音

〃主人公、恐々と中に進む

※SE…足音

〃廊下の奥から海杜が来る

※SE…遠めから近づく足音

【⑨ヒキから⑨】

「(歩きつつ) いらっしゃい。待ってたよ」

〃主人公、足を止めて多少訝しむ。海杜も傍まで来て止まる

※SE…双方の足音停止

【①】

「(クスツと笑い) そんな顔しないで。君を面接したのは俺じゃないけど、話はボスから聞いている。全部わかってるから、何も心配する必要はないよ」

「君は今日からここに入る新人さん。で、俺は君の教育係だ。名前は海杜。慣れるまでは俺が専属で君を見る事になってるから、よろしくね」

【① マイクに背を向けつつ】

「それじゃ行こうか。部屋まで案内するよ」

〃海杜が歩き出し、主人公もやや遅れて続く

※SE…海杜の足音

※SE…少し後から主人公の足音 ↓二人の足音、FO

(間)

■洋館・主人公の部屋

※SE…海杜がドアを開ける音（普通の居室ドア）

【7】

「ここだよ、入って」

――主人公↓海杜の順で入る

※SE…入室の足音×2

※SE…ドアを閉める音

※SE…二人で部屋奥まで進む足音、数歩

――主人公、室内を見回して広さに驚く

※SE…首を巡らす感じの衣擦れ

【6】

「そんなに広い？　ここに住む女の子の部屋は全部この広さだよ。バスルームと手洗いも部屋ごとについてるし、生活に必要な物は大体揃ってる。不自由はないと思うけど、もし何か欲しい物があったら言って」

――主人公、好待遇に驚き戸惑う

※SE…衣擦れ

「（不思議そうな息）……？　どうかした？」

――主人公、海杜を見て答える

※SE…衣擦れ

【8】

「はは、もっと酷い環境で大変な生活させられると思ってた？　そんな事するわけないよ。だって君は、これから『ヴェロニカ』になる女性なんだから」

「もう把握できてると思うけど、一応改めて説明しておこうか。ここは高級娼婦『ヴェロニカ』を育成する為の特別施設だ。君には今日からここで、毎日俺たち教育係の指導を受けてもらう。期間は決まってる。俺たちとボスが、君はもう一人前だと判断するまで」

「教育内容はベッドでの指導が8割。あと2割は教養のレッスンだよ」

主人公…教養？

※SE…首を傾げる衣擦れ

【①】

「お客様には政財界の大物も多いからね。教養やマナーもそれなりに必要になってくるだろう？」

【①から②ややヨリ】※押す時に寄る

「まあ、教養レッスンはそこまで厳しくないよ。
それより、まずは……（軽く押す）んっ……」

――海杜、主人公の肩を軽く押してベッドに座らせる

※SE…衣擦れ

※SE…ベッドに座る音

【③ややヨリ】

「君の体を確認しないといけないからね。さっそくだけど、始めるよ」

――海杜、主人公をそのまま押し倒す

※SE…ベッドに横たわる音

【③ややヨリから②ややヨリ】

「（押し倒す時の息）」

※SE…くみしだく衣擦れ

【②ややヨリ・やや上】

「（くみしだきつつ）ん……下向かない、ちゃんと俺を見て」

【①EJ】

「（キス。最初だけ軽めで、すぐに深く）」

「（キスしつつ）んっ……悪くないね……キス、うまいよ……ん、ふ……」

【①ややヨリ】

「（息をついて）声は抑えない事。でも演技もダメ。素直に、感じたままの反応をするんだよ」

／／海杜、愛撫しながら服を脱がしていく

※S E…服を乱す衣擦れ・断続的に

【⑧ヨリ／首の位置まで下がりつつ】

「頬から首筋にキスを移す」

【⑧ヨリ／胸の位置まで下がりつつ】

「（首筋から胸元までキスを移す）」

／／海杜、少し体を起こす

※S E…衣擦れ

【⑧ややヨリから①ややヨリ】

「手、伸ばして……（脱がす息）」

※S E…上衣を脱がす衣擦れ

【①ややヨリ】

「ああ、いいね。君の肌、上気するといい感じに色づくみたいだ。こういうの、男は嬉しいからね」

【①ややヨリから②ややヨリ】※ブラ取る時に動く

「（小さく苦笑して）でもブラは不合格。もっといい下着を用意してあげるから、これはもう着けなくていいよ。（ブラを取る時の息）」

／／ブラを取る

※S E…ホックを外す音（あれば）

※S E…シュルツと取る衣擦れ

【①】

「（値踏みするように見て）……うん、乳首もいい色だ。素材は悪くないな」

【①から⑧ややヨリ】※触れる時に動く

「次は、触り心地と感度だね……（胸に触れる息）」

【⑧ややヨリ】

「（触れつつ）ん……柔らかさはいい感じだけど、触り心地としてはもう一息。もっと手に吸い付くみたいな滑らかさが欲しいね。ま、手入れ次第ですぐ改善できるけど」

――胸に触れ、揉み始める

※S E…小さな衣擦れ・断続的に

【⑦ややヨリ】

「（触れつつ）ん……君は「ん」、どうされるのが好きなの？
これ、感じる……？」

※S E…身をよじる軽い衣擦れ

「いいんだ？ 結構強い刺激も感じるんだね。じゃあ……これは？ ん……」

※S E…身をよじる軽い衣擦れ

【⑧ややヨリ】

「へえ。強く引つ張られても爪を立てられても感じるなんて、上出来だよ。
乳首の開発は半分以上できてるね」

【⑧ややヨリ／後半で胸の位置まで下がரிつつ】

「それじゃ、もっと感じさせてあげるから。
どんなふうに喘ぐのか、たくさん聞かせて……」

【⑧ややオノ】

「（胸を舐める。最初はやや控えめ）」

「（舐めつつ）ん、ふっ……あれ、その程度しか声出ない……？
じゃあ、もっとかな……（舐め方を激しくしていく）んっ……」

／＼主人公、少し大きく反応

※S E…身をよじる衣擦れ

「ああ、やらしい声になってきた。その調子だよ。ほら、爪立てられても感じるなら、噛まれるのもいいだろう……？（噛んでから舐めたり吸ったりする）」

【②やや下】

「（逆の胸も、吸ったり舐めたり激しく口淫）」

主人公…貴方うまい…

※S E…衣擦れ

【②ややヨリ】

「え……はは、それはどうも。うまいのは当然だけどね。
でなきゃ教育係なんて務まらない」

「でも、これ位でそんな事言ったら後が大変だよ。まだ下も触ってないのに」

「ああ……もしかして触ってほしいって意味だったのかな」

※S E…首を振る衣擦れ（否定する）

【①】

「そう？ でもいいよ。胸の感度は大体わかったし、次に進もう」

／＼海杜、少し体を下げる

※S E…衣擦れ

【①やや下から①下】※胸から腰の位置くらいまで下がる

「（下がる時の息）……腰上げて。（脱がす時の息）」

※S E…下衣を脱がす衣擦れ

【①下】

「（秘部を見て）……ふふ、よく濡れてる。

新人としては、感度も反応も申し分ないね」

【①下から②下】

「下着も脱がすよ。(脱がす息)」

※SE…下着を脱がす衣擦れ

【②下】

「見せて。(足を開く時の息)」

※SE…主人公の足を開く時の衣擦れ

／／海杜、軽い手淫を始める

※SE…水音・控えめなものを断続的に

【①下】

「(触れつつ) ……いい色だ。ヒダの形も……何度も男を受け入れて、程よく淫らに成長したって感じだね」

「クリトリスは……小さめの方かな。ま、これはお客様にも好みがあるし……」

「問題は中だ。緩んでないかどうか……(指を入れる息)」

／／指を入れる

※SE…指が入っていく感じの水音

※SE…主人公がよがる衣擦れ

【⑧下からマイクを見上げて】

「気持ちよかった？ それでいいんだよ、今日の君の仕事は、素直に感じてる姿を見せる事だから」

／／海杜、膣内の手淫を開始

※SE…指を出し入れする水音・継続

【⑧下】

「(手淫しつつ) ん……ああ、大丈夫そうだな。
ん……名器とまでの締め付けじゃないけど、しっかり絡みついてくる……」

【⑧下からマイクを見上げて】

「どこが好きなの？ 経験値は充分みたいだし、Gスポットでよくなるのは簡単だよな？ (手淫) んっ……、っ……」

※SE…よがる衣擦れ

【①下からマイクを見上げて】

「うん、いいよ。感じて、もっと欲しがって」

【①下】

「ここは問題なし、と。次は奥だ…… (指を奥へ) んっ……ポルチオでイッたことはある？」

【①下から②下】

「わかってるだろう？ 奥の上の方だよ……んっ……この辺、かな……」

――主人公、大きく反応

※SE…衣擦れ

【②下／「どうなの」から軽くマイクを見上げて】

「当たり、ここだね。どうなの、イッた事はあるの？」

主人公…時々

【②下】

「時々か……あまり上手い男に当たってこなかったのかな。じゃあここは、今後重点的に開発だね」

「とりあえず一度イかせてあげるよ。もう少し足開いて。(足を開く時の息)」

※SE…足を開く衣擦れ

――海杜、秘部に顔を近づける

※SE…衣擦れ

【①下】

「さて、どんなイキ方見せてくれるかな……」

／＼手淫と口淫を同時に行う

※S E…水音・継続（台詞がメインで聞こえるよう、小さめで）

「（秘部を舐める）」

「（舐めつつ）んっ……快感はね……体に覚えさせるものなんだ……ん、ふ……。まだ奥だけでイクのは難しいなら、こうして他の部分での快感と合わせてしまえばいいんだよ……ふっ、じゅっ……」

「クリトリスと奥でイケたら、次は奥だけにする。奥だけでイけるようになったら、今度は連続でイけるようにする。そうやって、どんどん感度を上げていってあげるから……今日は、このままイッて……」

「（舐めたり吸ったり、激しく）」

「（舐めつつ）ふっ、ん……ああ、奥が痙攣してきた……イキそうかな……？」

「（舐めたり吸ったり、激しく。追い立てるように長めに攻めて頂き、最後に主人公が達する）」

／＼主人公、達する

※S E…ビクツとする衣擦れ

／＼海杜、手淫だけ続ける

※S E…水音

【①下から⑥下】

「（息をついて）イッたね……ふふ、中也キュウキュウ締まってる」

／＼海杜、指を抜き体を起こす

※S E…抜く水音

※S E…体を起こす音

【⑧下から⑧】

「(体を起こす時の息)」

【⑧】

「気持ちよかった？ 声も結構可愛かったよ。……ちよっと待っててね」

／／海杜、上衣を脱ぎ、前をくつろげる(下は脱がない)

※SE…シャツを脱ぐ音

※SE…ベルトを外す音とファスナーを下ろす音

※SE…陰部を出す時の衣擦れ

【⑧ 軽くマイクから外して】

「(右記、脱いでいる間の息)」

【⑧から①／マイクを見つつ】

「お待たせ。ところで君、今日は安全日？」

※SE…頷く衣擦れ

【①】

「そう。じゃあナマでしょうか。君の中の感じ、じかに把握しておきたいし」

【①から①ややヨリ】※挿入の時に寄る

「大丈夫だよ、後でアフターピルもあげるから。」

……行くよ。(挿入) んっ……」

／／正常位で挿入

※SE…挿入の水音

【①ややヨリ】

「(やや感じつつ) んっ、はぁ……あぁ、いいね……すっかりほぐれてるけど、俺のにぴったり吸い付いてくる……は、んっ……」

「濡れ方も申し分ないし……仕上げれば、かなり良くなりそうだ……はぁ……」

【②ややヨリ】

「もう一回、ポルチオでイかせてあげるよ……（動き出す）んっ……」

／＼律動開始

※SE…抽挿の水音・最初はゆっくりめに継続

【②ややヨリから③ややヨリ】※主人公が横を向いたので

「（律動の息。最初は控えめに）」

【③ややヨリ】

「（律動しつつ）横向いちゃダメだよ……んっ……顔、ちゃんと見せて……」

【②ややヨリ】

「（律動しつつ）向き合ってる時は相手に表情を見せる事、声を聞かせる事……これは基本だから、これからはずっと意識してね……ん、ふっ……」

「速く、するよ……んっ……」

／＼律動を少し速める

※SE…抽挿の水音・少し速めて継続

「（律動の息）」

【②ややヨリから①ややヨリ】

「（律動しつつ）はぁ、はっ……そう、その顔だよ……君が快感に溺れる姿で、男はさらに欲情するんだ……俺も、いいよ……はぁっ……」

【①ややヨリから①ヨリ】

「キスしようか……（深いキス）」

【①ややヨリ】

「（ふっと笑って）もっといい顔になった。
そうだよ、繋がりながらするキスは気持ちいいよね」

【①ややヨリから①ヨリ】

「まだまだ感じさせてあげるよ……（キスしながら律動）」

【⑧ヨリから⑦ヨリ】

「（律動しながら頬から耳へキスを移す）」

【⑦ヨリ】

「（耳を舐める）」

※SE…主人公がよがる衣擦れ

「ここも感度よし。攻めがいがあるね。（耳を舐める）」

／＼海杜、律動をやめて一度抜く

※SE…抽挿の水音が遅くなっていく↓抜く音

【⑦ややヨリから⑧】

「（律動遅めていく）はぁっ……はっ……（抜く）んっ……」

【⑧から⑥】

「……向き変えるよ。両手ついて、お尻上げて。（促す時の息）」

／＼海杜、主人公の移動を促しバックへ

※SE…ベッドの上で動く音

【⑤】

「顔が見えなくなるから、その分いい声で啼いてね……（挿入）んっ……」

／＼再挿入

※SE…挿入の水音

「さあ、奥でイこうか。思い切り突いてあげるから……（律動開始）んっ……」

／＼律動再開

※SE…抽挿の水音、ゆっくりから速度を増して継続

【⑤から④】
「(律動の息)」

【④】
「(律動しつつ) はぁ、はっ……正常位より、バックの方がしっかり届いていいだろう……?」「こ」……俺にも、コリコリしたところが当たるのよくわかる……」

「この感触は男も好きだから……」
「こは、もっと敏感にしてあげないとね……んっ、ふっ……」

――海杜、律動を速める

※SE…水音・やや大・継続

※SE…肌がぶつかる音・継続

【④から③ややヨリ】※背後から覆い被さり、耳の少し後ろに顔が来ている
「(律動の息。少し激しさを増して)」

主人公…激しい……!

※SE…身をよじる衣擦れ

【③ややヨリ／軽くマイクを見て】
「(律動しつつ) 激しい……? 今日には優しくしてるつもりんだけど……。でも、君だって気持ちいいんだろう……? 中はいやらしく、俺のを締め付けてるよ……んっ、ふっ……」

「ほら、集中して……はぁっ……はっ……」

「(律動の息) ……ああ……中がすくく波打ってるよ……イキそう……」
「我慢しないで、イッていいよ……」(更に律動を速める)んっ、ふっ……」

――絶頂へ向け更に律動を速める

※SE…水音・やや大・速度を増して継続

※SE…肌がぶつかる音・速度を増して継続

※SE…ベッドの軋み・継続

【③ややヨリから④ややヨリ】

「(律動の息。熱く)」

【④ややヨリ】

「(律動しつつ) はあっ、くっ……んっ、キッツ……はあっ、はっ……」

「(律動の息。最後に主人公が達する)」

――主人公、達して痙攣

※SE…ビクツとする衣擦れ

――達した主人公の締め付けで、海杜も達する(中出し)

「(達する) んっ、くっ……んん、んっ……!」

【④ややヨリから③ややヨリ・マイクと並行】(覆い被さるだけ)

「(射精中の息)」

【③ややヨリ／マイクと並行】

「(荒い息を落ち着けていく・FO)」

(間)

――事後、互いにベッドに座り服を着ている

※SE…服を着る音、二人分・FI

【②ヒキ】

「(軽く息をついて) お疲れさま。今日の予定はこれだけだから、後はゆっくりしていいよ」

※SE…頷く衣擦れ

「それにしても……君、ほとんど緊張してなかったし、抵抗もなかったね」

主人公…駄目？

※SE…衣擦れ

【①ヒキ】

「駄目なわけではないさ。むしろ俺はやりやすく助かったけど、最近はその子いなかったなと思って」

「ここがどんな所かわかっていても、最初はガチガチに緊張してたり、土壇場で怖気づいて泣き出す子も結構いるのに」

――主人公、淡々と答える

※SE…衣擦れ

【②ヒキ】

「静かに驚く」……そうなんだ。はは、すごいね。初日に『早くお金持ちに買われて楽な生活したい』なんて言い切った子は、君が初めてだよ」

「……君が自ら望んでここに來た事は知ってる。でも、特に生活が困窮してたわけじゃないって聞いてるけど……どうして來たの？」

――主人公、答える

※SE…衣擦れ

【③ヒキ】※主人公が顔を背けた

「今までと大して変わらない……？ それって……」

「(話を聞き)……そっか。男の財力に頼るのは、君にとっては今に始まった事じゃないんだ」

「(話を聞き) 施設出身か……確かに、いまだにそういう事を気にする企業はあるからな……堅い仕事に就くのも難しいよね」

(※自分も同じ身上なので、少し実感や含みを持って)

主人公…私には体しかないし

※SE…衣擦れ

【②ヒキ】

「なるほど。同じような事をして今まで以上のお金を手に入れられるなら、そりゃあ魅力的だね」

「いいと思うよ。……って、そもそも俺が君の志望動機にどうって言う権利もないんだけど。こちらとしては、指導がスムーズに進みそうだからありがたい」

「でも、ひとつだけ言わせて。君はさっき、『私にはこの体しかない』って言ったけど……」

「それは違うよ。『ヴェロニカ』は体だけを売る仕事じゃない。君という存在全てで男を虜にする……そういう仕事だ」

――主人公、理解できず首を傾げる

※SE…衣擦れ

【①】

「(ふっと笑って)……今はまだわからないかな。いいよ、これから俺が、時間をかけてしっかり教えてあげるから」

○トラック2

■主人公の部屋

／指導一回目。お互いバスローブでベッドの上にいる

※SE…軽いベッドの軋み

【⑧ヒキ】

「さてと。それじゃ、始めようか。（脱ぐ時の息）」

／海杜、バスローブを脱ぐ

※SE…衣擦れ

【①ヒキ】

「君も脱いで、横になって」

※SE…主人公がバスローブを脱ぐ音

※SE…主人公がベッドに横たわる音

【①やや上】

「それでいい。脱がす工程の演出も大事だけど、そういうのはおいしいね。バスローブじゃ特に脱がす楽しみもないし」

【①やや上から①】

「まずは、肝心の体を仕上げていかないと……（胸に触れる）ん……」

※SE…胸に触れる小さな衣擦れ

【①】

「（触りつつ）最初は……。君の乳首、今でも結構いい感じだから、手早く仕上げていく事にするよ」

主人公…まさかその…

※SE…衣擦れ

【② 軽く左を見て】※キャスト様から見て左

「そう、これをつけるんだ」

／＼海杜、サイドボードに置いてあったゴム製ニップリングを取る
※SE…小さな音（カタツ…）

【② マイクを見て】
「ニップリングは初めて？ 大丈夫。ゴム製だし、そんなに強い締め付けの物じゃないから。やんわり絞められてるくらいかな。でも勃起した乳首にこれをつけ続けると、ずっと快感が続くから。すぐに今以上に敏感な乳首になれるよ」

【② ややヨリから⑧ ややヨリ】
「（つける時の息）」

／＼ニップリング装着

※SE…小さな音（パチッ）、2回

※SE…主人公が身じろぐ衣擦れ

【①】
「ね、痛くはないだろう？ じきにもっと気持ちよくなる」

【① から⑧ ヨリ】
「ほら、じっとして。自分で外しちゃダメだからね……（頬に数回キス）」

【⑧ ヨリから⑦ ヨリ】
「（頬から耳にキスを移す）」

【⑦ ヨリ】
「（耳元で囁き気味に）最初のレッスンからこれをつけられるのは優秀だよ。期待してるから、頑張って……（耳を舐める）」

※SE…主人公が身じろぐ衣擦れ

「感じる？ そういう時は、どう気持ちいいのか言っただよ。（耳を舐める）」

【⑧ ヨリから② ヨリ】
「（息をつきつつ反対側に移動）」

【③EJ】

「(逆の耳を舐める)」

「どうなの？ 耳を舐められるとどうなっちゃうのか、ちゃんと言葉にして？」

／主人公、話す

※SE…衣擦れ

「いい子だ。その調子」

【②ややヨリ】

「耳への刺激だけで、乳首もさっきより大きくなったね。
締め付けが増したの、自分でもわかるだろう？」

【②ややヨリから①ややヨリ】

「そこは後で触ってあげる。……足を開いて」

※SE…足を開く衣擦れ

／海杜、秘部に触れる

※SE…水音

【①やや下／俯き気味で】※視線は秘部の方

「昨日より濡れてる。いいね」

／陰核を軽く手淫

※SE…小さめの水音・継続

「(手淫しつつ)ここ……クリトリスにも、もう少ししたらリングをつけようか。
上にも下にもつけてると、連続で何度もイケるようになるよ」

※SE…よがる衣擦れ

【⑧やや下からマイクを見て】

「気持ちいいの？ ふふ、まだ指も入れてないのに」

／指を入れる

※SE…水音

【⑧やや下／俯き気味で】

「指を入れる時の息」

「クリも中もたくさん触ってあげるから、今日は潮を吹いてみようね……」

／手淫開始

※SE…水音・継続

【⑧やや下からマイクを見て】

「手淫しつつ（ん……ほら……お腹の裏側、こっやってこっすられると……いいだろう……？」

※SE…よがる衣擦れ

【①やや下からマイクを見て】

「そうだよ……好きな所に触ってもらった時は嬉しいよね？
顔で、声で、体で……その悦びを示すんだ……んっ……」

※SE…よがる衣擦れ

【①やや下から①ヨリ】

「可愛いよ。もっと乱れて……（手淫しつつキス）」

【①ヨリ】

「（キスしつつ）んっ……キスも情熱的にね……
君からも絡めて、吸って……んっ、ふっ……」

【①ややヨリ】

「（息をついて）ふふ……ぶっ、そろそろキてる……？」

主人公…イキそう…

※SE…よがる衣擦れ

「そのまま身を任せるんだ。我慢する必要ない、出して」

――追い立てるように手淫を速くする

※S E…水音・速めて継続

「ほら……もう、たまらないだろう……？（手淫の息）っ……、っ……」

――海杜が指を抜いた直後、主人公、潮を吹く

※S E…抜く水音

※S E…ビクツとする衣擦れ

※S E…潮吹き音

【②】

「……ああ、いっぱい出たね。上手だよ」

――主人公、ぐったりする

※S E…衣擦れ

「息切れるほど激しくイッちゃった？ よかったね」

「でも休んでる暇はないよ。感じさせてもらったら、次はお礼をしないとね。
……入れる前に、俺のを舐めてくれる？」

主人公…え…

【②から②ややヨリ】※腕を引く時に寄る

「ご主人様への奉仕も大切だろう？ さあ、起きて。（腕を引く）んっ……」

――海杜が主人公の腕を引いて起こす

※S E…掴む音

※S E…起きる時の衣擦れ

【①上】※海杜は膝立ち。主人公はその前でぺたんこ座りの状態

「両手で持ってね。まずは自分の思うようにやってみて」

／＼主人公、始める

※SE…手を添える時の小さな衣擦れ

※SE…控えめな水音・断続的に

「(控えめに感じている息、しばらく)」

「(控えめに感じつつ) はぁ……こっちも、慣れてるみたいだね……
さすが、色んな男に尽くしてきただけはあるよ……んっ……」

「でも……もっと、俺の反応に注意して……どこをどうした時に俺のが
硬くなったのか、俺が声をあげたのか……最初の一回で、
君はそれを覚えなくちゃいけない……」

「はぁ……んっ……わかるだろう……?」

俺が弱いところを、丁寧に攻めてみて……」

／＼主人公、口淫を少し激しくする

※SE…舐めたり吸う水音・継続

【②上】

「(少し快感を増して) んっ……正解……まあ、基本的に感じやすいところは
決まってるけど……俺は裏筋を根元から先まで、
舌全体で舐め上げられるのが好きなんだ……」

「もう少し強く……何度も往復して……その後カリへ移動されると、
すごくいい……んっ、はぁ……」

「はっ……んっ……ああ、そう……上手だよ……。だけど手が疎かだ……
口で先端を攻め始めたら、根元はちゃんと手でしないと……。
強すぎず、弱すぎず、絶妙な力加減で……そう、それくらい……」

「最後は口と手両方で……しっ……いて……
もっと……喉の奥限界まで、入れて……んっ……」

【②上から①上】

「(感じている息。徐々に快感を増して)」

【①上】

「はあ……ふっ……ああ、イキそうだ……そのまま続けて……」

「出す、からね……飲むんだよ……はあっ……んっ……」

「（感じている息。最後に達する）」

※SE…水音停止

「（射精中の息）」

／／主人公、口を離す

※SE…小さな水音

※SE…衣擦れ

【⑧上】

「（少し荒めの息で）ちゃんと飲めたね。

まずそうな顔してないのは偉いよ、お利口さん」

「合格点。今以上のテクニクは、また次回教えてあげる」

／／海杜、胡坐をかく

※SE…動く時の衣擦れ

【⑧上から⑧】

「（座る時の息）……今日は座ってしよう。君が自分で入れてくらん」

／／主人公も移動し、対面座位へ

※SE…動く時の衣擦れ

※SE…挿入の水音

【①ややヨリ・ややオ】

「（軽く感じて）んっ……もっと入るだろう……？ 早くおいで……」

※SE…挿入の水音（入り切る）

【①ややヨリ】

「快感の息をついて……ふふ、やさしい目だ。
ご奉仕してる間も疼いてたのかな」

「やっぱり君には素質があるね。今まで以上の快感を知れば、
とても淫らで魅力的なヴェロニカになるよ。間違いない」

「安心して。俺がしっかり教えてあげるから……（動き出す）んっ……」

――律動開始。最初はゆっくりめから、徐々にリズムに乗っていく

※SE…抽挿の水音・断続的↓継続

【①ややヨリから②ややヨリ】

「（律動の息。最初はゆっくりめから、徐々にリズムに乗っていく）」

【②ややヨリ】

「（律動しつつ）俺の肩に、手を置いて……君も、動くんだよ……
はっ、んっ……」

※SE…肩に手を置く音（ぺち、ぺち）

※SE…抽挿の水音・継続

【③ややヨリ／軽くマイク見て】※主人公が前傾して顔が横に来た

「んっ……ああ、深いね……。どう……？
下からえぐられて……気持ちいいだろう……？ はっ、ふっ……」

【③ややヨリから②ややヨリ】※後半で動く

「でもこんなものじゃないよ……」

「お預けだったここ、可愛がってあげようね……」

――海杜、律動しつつ主人公の乳首に触れる

※SE…衣擦れ

※SE…主人公が大きく反応する衣擦れ

【②ややヨリ】

「はは、やっぱりリングの効果は絶大だ。自分でも実感してるだろう？
昨日はつままれただけじゃここまで感じなかったのに、って」

「こうして……リングの上から、こねるようにすると……」

※SE…よがる衣擦れ

【①ややヨリ】

「駄目？ 違うよね。どうなのかちゃんと言って？」

——主人公、話す

「熱い、か……じゃあもつと熱くしてあげる。

奥もたくさん突いてあげるから、何度イッてもいいよ」

——海杜、律動を激しくする

※SE…水音、やや大きくして継続

※SE…肌がぶつかる音・継続

【①ややヨリから②ややヨリ】

「(律動の息。これまでより激しめに)」

【②ややヨリ】

「(律動しつつ) はあっ……ふっ……はは、すごい音だ……
こんなに感じてるんじゃ、すぐイッちゃうかな……」

「(律動の息)」

【②ややヨリ/胸の位置まで下がりつつ】

「(律動しつつ) 乳首は……次は、こうしてみようか……」

【②ややオ】

「(律動しつつ胸舐め)」

「いいだろう……？ 昨日と同じ強さで嚙んでも、感じ方はだいぶ違うと思うよ……（嚙んでから、また舐めたり吸ったり）」

主人公…イク！

※SE…よがる衣擦れ

「ふふ、ほらね……。イク……？ どうぞ……」

（舐めたり吸ったり。追い立てるように激しく。最後に主人公が達する）」

／／主人公、達する

※SE…ビクツとする衣擦れ

／／海杜、律動を緩やかにするが止めない

※SE…抽挿の水音・断続的に

【⑧ややヨリから⑦ややヨリ】※主人公が前傾し顔が横に来ている

「はっ……んっ……ああ、すごく締め付けてくるね……気持ちいいよ……」

主人公…止まって……！

※SE…衣擦れ

【⑦ややヨリ／軽くマイクを見て】

「どうして止まらないといけないの？ 俺はまだイッてないんだから、終わるわけないだろう？」

「君もまたイけばいい……ほら……（律動を速める）んっ……」

／／律動を速める

※SE…抽挿の水音・継続

※SE…肌のぶつかる音・継続

「（律動の息。また熱さを増していく）」

【⑦ややヨリから⑧ややヨリ】

「（律動しつつ）はあっ……くっ……痙攣が、止まらないね……。どう……っ。続けてイクのは、たまらないだろう……？ はあっ、ふっ……」

【⑧やや下】

「(律動しつつ胸舐め)」

／／律動を更に速める

※SE…抽挿の水音やや大・継続

※SE…肌のぶつかる音・継続

【①ややヨリから②ややヨリ】

「(律動の息。自身も高まりつつ)」

【②ややヨリ】

「(律動しつつ) はあっ……んっ……俺も……そろそろ、かな……」

子宮口にたくさんぶつけてあげる……今ならきつと、その心地よさで
またイけるよ……はっ、くっ……」

【③ややヨリ】 ※密着して顔が横に来ている

「(律動の息。高まっていき、最後に達する)」

／／二人、達する(海杜は中出し)

※SE…ビクツとする衣擦れ

【③ややヨリから②ややヨリ】

「(射精中の息) はあっ……はっ……す「い、ね……。最後の締め付け……
食いちぎられるかと思うくらい、俺もよかったよ……」

【①ヨリ】

「(優しく深いキス)」

【①ややヨリ】

「(息をついて) ……お疲れさま。今日は「」までにしておくから、
ゆっくりお休み」

○トラック3

■広間

→前トラックから数日後。教養レッスンの時間

→テーブルに向かい合って座る二人。海杜が紅茶を淹れている

※SE…紅茶を注ぐ音

【①ヒキ／俯き気味で】

「……はい、完成」

※SE…ティーポットを置く音

【①ヒキ／マイクを見て】

「(ポットを置いて) 今のが基本的な紅茶の淹れ方だよ。覚えた？」

主人公…こんな授業必要？

「もちろん、必要だから教えてるんだ。お客様と一緒に朝を迎える事は多いし、セックスばかりじゃなくて癒しの時間を求められる方もいるからね。結構大事なスキルなんだよ」

「君もここへ来てもう二週間だから、そろそろ教養レッスンも進めていかないと。さあ、俺が今教えた通りにやって「こん」」

→主人公、ぎこちなく紅茶を淹れ始める

※SE…茶葉を入れる音×スプーン2杯分

※SE…ケトルを持つ音

※SE…お湯を注ぐ音

【②ヒキ】

「そうそう。茶葉をよく回転させるためには、高い位置からお湯を……(語尾は次のSEで遮られる)」

→湯の勢いが強すぎたため跳ねて手にかかり、ケトルを置く主人公

※SE…水が跳ねる音(パシャッ)

※SE…慌ててケトルを置く音(ガチャッ)

／＼海杜、すぐに立ち上がる

※S E…椅子から立つ音

【②ヒキ／やや上へあがりつつ】

「（驚き、立って）っ！ 大丈夫!？」

／＼海杜、前傾し主人公の手を取る

※S E…衣擦れ

【②やや上・ややヨリ】

「手にかかったの？ 見せて」

主人公…平気よ

【②やや上・ややヨリ／「行こう」で右を見つつ】

「（真剣に）平気じゃないよ！ すぐに冷やさないと。行こう!」

／＼海杜、主人公の手首を引いて立たせ、キッチンへ

※S E…主人公が立つ音

※S E…急ぎ足の足音×2・F O

（間）

／＼その後広間に戻り、手当てを終えるところから

／＼椅子に座る主人公の前で海杜が跪いている状態

※S E…包帯を結ぶ音

【②やや下からマイクを見て】

「（結んでいる時の息）……これいい。すぐ冷やして手当てしたから

大丈夫だとは思っけど、今日はまだ痛むかもしれない。ごめんね……」

主人公…なぜ謝るの？

※S E…衣擦れ

「だって、俺がいきなり君に一人でやらせたせいだから。

俺にも責任はあるだろう？」

／／主人公、自分の体を軽んじるような事を言う
※S E…衣擦れ

【①やや下からマイクを見て】

「(少し考えるような息) ……君は……どうしてそんな言い方をするの?」

主人公…え?
※S E…衣擦れ

『私の体なんて』とか、『手や指先くらいどうでも』とか。今言っただろう?
ここへ来た日には、『私にはこの体しかない』って言ってたのに。
その割には、自分の体を軽んじるような事を言うよね」

／／主人公、返答に詰まる

【⑧やや下からマイクを見て】※主人公が目線を外したので

「……ああ、ごめん。怒ってるわけじゃないんだ。
でも俺は君に、もっと自分を大事にしてほしいな」

「君は一人前のヴェロニカとして巣立って行く為にここにいる。それは少し
大げさかもしれないけど、生まれ変わるって事なんだよ。どんな高級ブランド
品よりも、何カラットもあるダイヤモンドよりも魅力的で、価値のある存在に」

主人公…価値?
※S E…衣擦れ

【①やや下からマイクを見て】

「そう、ヴェロニカにはそれだけの価値がある。そうじゃなきゃ、
お客様だって大金を出して買おうとなんてしないだろう?」

主人公…よくわからない…
※S E…衣擦れ

「ん? よくわからない?」

主人公…所詮娼婦だし…

【⑧やや下からマイクを見て】

「所詮娼婦、ね……つまり、たとえ高値で扱われようと、娼婦である以上その金額が自分の値打ちだとは思えないって事？
所詮、体売って生きていくような存在だから」

主人公…うん…

「(ふっと優しく笑って) やっぱ君は、まだ見つけられてないんだね。
自分の価値も、居場所も……」

／＼海杜、主人公を優しく抱きしめる

※S E…そっと抱く音

【⑧やや下から⑦Eリ】

「(優しく抱きしめる息)」

※S E…主人公が身じろぐ衣擦れ

【⑦Eリ】

「じっとしてて。こうしてると伝わってこない？ 俺が君を大事にしてる事。
ただの道具を、こんなふうには優しくは抱きしめないだろう？」

「前にも言ったけど、ヴェロニカは体だけを売ればいいんじゃない。

男の欲求を満たすのは大前提だとしても、体だけじゃダメだ

君の言葉、君の微笑み、君の香り……全てで男を酔わせ、魅了する。
だからこそ男は君を求め、長く傍に置き、養おうと思う。

それは君に、それだけの価値があるという事に他ならない」

「ベッドの上で要望に応えるのは大切な事だけど、男にかしづく必要はないんだ。
むしろ、もっと夢中にさせて、今度は自分の望むものをたくさん
与えてもらえばいい」

「大丈夫。俺たちが必ず、君を素晴らしいヴェロニカに育て上げてみせる。

(少し貯めてからしっかりと) ……俺が君に教えてあげるよ。君の価値を」

主人公…：本当に？

※S E…小さな衣擦れ

【⑧ややヨリ】

「ああ、約束する。だから君も、もう自分を卑下しない事。わかった？」

※S E…頷く衣擦れ

【①】

「よし。じゃあ今日は……君にはもう無理させられないし、普通にお茶を飲んでおしまいにしようか。右手は使えるから平気だね？」

※S E…頷く衣擦れ

【①から①やや上】

「さっきのは冷めちゃったし、新しい紅茶を淹れるよ。
お湯沸かしてくるね。(立つ時の息)」

――海杜、主人公から離れようとする

※S E…立つ時の衣擦れ

主人公…：さっきのでいいよ

※S E…衣擦れ

【①やや上・ややヒキ】

「気にしないで。俺、個人的にも紅茶が好きだね。
淹れるのも全然苦じゃないから」

【①やや上／「待ってて」でマイクに背を向けつつ】

「おいしいお菓子も追加してあげるよ。待ってて」

――海杜、キッチンへ向かう

※S E…足音・F O

○トラック4

■主人公の部屋

／／主人公が来て二カ月目のある日、性教育中

／／すでにフィニッシュ間際の律動状態からF I（体位はバック）

※S E…抽挿の水音・F I・継続

※S E…肌のぶつかる音・F I・継続

※S E…ベッドの軋み・F I

【⑤やや上】

「（律動の息・F I。少し長めに下さい）」

「（律動しつつ）はぁ……いいよ……」のまゝ、もっと奥を締めて……
そうしたら、もう……」

「はぁっ……んっ……イク……っ……出す、よ……っ……」

【⑤やや上から⑥やや上】

「（律動の息。高まっていき、最後に達する）」

／／海杜、達する

※S E…律動音停止

【⑥やや上】

「（射精中の息）」

【⑥やや上から⑤やや上】

「（まだ少し荒い息をしつつ、自身を抜く）はぁ、はぁ……んっ……」

※S E…抜く水音

／／主人公が体を起こして振り返る

※S E…動く衣擦れ

主人公…ゴム外してあげる

【②ややヒキ】

「え……君が外してくれるの？」

――主人公、膝立ち状態の海杜の足元まで来る

※SE…動く衣擦れ

【①やや上】

「いいね。男にとっては嬉しい」奉仕だよ。今日は危険日だからゴムつけたけど、こんなサービスがあるならそれもよかったって思えるね」

※SE…ゴムを外す音（ピチ、パチ系）

【②やや上】

「よくできました。上手だよ」

※SE…ゴムをゴミ箱に捨てる音（ポサツ）

――主人公、汚れを舐め取る為の軽い口淫

※SE…ピチャピチャ舐める感じの水音・継続

【①上】

「（軽く感じつつ）っ…………へえ…………そんな事もしてくれるんだ？」

「（軽く感じつつ）ん…………命じてもないのに嬉しそうに舐めて…………俺の精液、おいしい？」

「ふふ…………今の顔、すくいやすいよ。素晴らしいね…………」

――主人公、口淫をやめて顔を上げる（水音ここまで）

※SE…衣擦れ

【①】

「ありがとう。…………指導を始めて二カ月になるけど、君の成長は予想以上に速いよ。そろそろ専属制をやめても大丈夫だろうし、半年もしないうちに買い手がつく可能性もありそうだ」

主人公…え…

「(少しからかうように)ん……どうしたの？
俺が専属じゃなくなるのは寂しい？」

主人公…べ、別に！（と横を向く）

※SE…衣擦れ

【⑦】※主人公が顔を背けたので

「(クスッと笑って) そうだね。君が進歩したっていう事だし、ここには
他にも様々な個性を持った指導係がたくさんいる。持ち回りになれば
今まで以上にバリエーションに富んだ教育を受けられて、君の技能も
格段に上がるはずだよ」

「それに、ヴェロニカが教育係に情なんて持ちちゃいけない。俺たちの事は、
自分が羽ばたく為の踏み台だとも思っておけばいい」

主人公…なら優しくしなければいいのに

※SE…衣擦れ

【⑧】※主人公が海杜を見たので

「え……優しいって、俺が？」

※SE…頷く衣擦れ

「寂しがらせたくないなら優しくするなって？ それは……」

主人公…私は違うけど！ 他の子の話よ

（本当は自分もそうなので少しムキになって説明）

※SE…衣擦れ

【①】

「(クスッと笑って) はいはい、わかってるよ。君は別に寂しくないけど、
俺がこんなふうに接したら、中にはその気になっちゃっやう子も
いるかもしれない……そういう話だよな？」

※SE…頷く衣擦れ

「うーん、でもなあ……こういう性格だし、お客様だってヴェロニカを大切にしてくれる紳士ばかりだしね。それに、支配だけを感じる生活じゃ君たちの心が休まらないだろう？ 俺は心も体も健やかな状態で君たちを送り出したいから、ここを居心地の悪い場所にはしたくないんだ」

「まあ専属を離れたって週に1・2回は担当するし、そもそも同じ場所に住んでるんだから寂しがる必要もないさ」

主人公……

【②】

「(ふっと笑って)……さてと。雑談はこの辺にして、シャワー浴びようか」

「一緒に入ろう。さっきのご奉仕のお礼に、体を洗ってあげるよ」

主人公…え…いいよ

※SE…衣擦れ

【①】

「いいからいいから。さあ、可愛いヴェロニカ、お手をどうぞ」

〓海杜、手を差し伸べる

※SE…衣擦れ

〓主人公、しばし迷うが手を取る

※SE…手を重ねる音

(間)

■バスルーム

〓海杜、椅子を主人公の方に動かす

※SE…浴室用椅子を動かす音(カタツ)

【⑧】「はい、座って」

／／主人公、座る
※SE…座る音

／／海杜は主人公の前に跪く
※SE…座る音（ペタ、ペタ）

【⑧】【⑧やや上から⑧】
「（跪く時の息）」

【⑧】「いっぱい汗かいたし、綺麗にしないとね……」

／／海杜、手にボディークリームを出して主人公の体に触れる
※SE…容器のポンプを押す音、2回ほど
※SE…水気を含んだ肌に触れる音

／／体を撫でるように洗い始める
※SE…水気を含んだ肌に触れる音・断続的に

【①ややヨリ】
「（小さな笑い混じりに）ほら、背筋伸ばして。それじゃ洗いつらいよ」

／／主人公、背筋を伸ばす

【①ややヨリから②ややヨリ／洗っている時は視線も体を見て】
「うん、いい子。（洗いつつ）……この肌も、しっかり手入れしたおかげで
すごく滑らかになった。触れても抱きしめても心地いい、絹のような肌……
大切にしないとね……」

主人公…くすぐりたい

【②ややヨリ／マイクを見て】

「くすぐったい？ でもあまり力を入れたら、今度は痛いだろう？」

主人公…そこまで優しくなくていい

【①ややヨリ】

「（優しく）ダメだよ。乱暴になんてしたくない。優しく触れなくちゃ」

「ついさっきも、それにこれまでも言ったと思うよ。俺にとって君は大切な存在なんだって事。だから優しくしたいと思うし、慈しみたいと思う」

主人公…なぜ…？ ヴェロニカになる女だから？

【②ややヨリ】

「なぜ、か……もちろん、ヴェロニカになる女性だからっていうのもあるよ。でもそれだけじゃない」

「君とここで出会ったのも何かの縁だろうから。これも前にも言った事だけど……ちゃんと自分の価値を見出して、巣立って行ってほしいから、かな」

【①ややヨリ】

「（改めて主人公を見、ふっと笑って）最近の君、出会った頃よりずいぶんいい目をするようになった。少しはわかってきた？ 自分にもちゃんと価値はあるんだって事」

主人公…少し

「そう、よかった」

「今は少しでもいい。その自信を忘れないで。君が忘れなければ、どこへ行ったって毅然と、輝かしく生きていけるはずだから」

○トラック5

■主人公の部屋

――前トラックからしばらく経過

――主人公、ベッドへ拘束され、バイブを挿入されて放置されている

※SE…バイブレータの振動音・小さめ・FIして継続

※SE…身をよじる衣擦れ・FIして断続的に継続

――しばらくすると状況を知らずに海杜が入ってくる

※SE…ノック音

※SE…ドアを開ける音

【⑩ヒキ・やや上】

「(話しながら入ってきて、途中で状況に気付く) やあ、洗濯物と切れかけてたボディオイル持ってきて……」

――主人公、海杜を見る

※SE…動く衣擦れ

【⑨ヒキ・やや上】

「あれ……ごめん、もうレッスン中だったんだ」

――海杜、ベッド脇まで来る

※SE…ドアを閉める音

※SE…足音・数歩

――海杜、傍らに持ってきた服を置く

※SE…服を置く衣擦れ

【②やや上】

「今日はルイくんの担当だったわけ？ 時間変わったの？」

※SE…頷く衣擦れ

「そっか。専属を離れてからも問題なく進んでるし、
そこまで把握してなかったよ。ごめんね」

／＼海杜、身を屈めて主人公の耳元に顔を寄せる
※S E…衣擦れ

【③ややヨリ】

「(少しだけ意地悪に、囁き気味で) ふふっ……ベッド、すごい事になってるね。ビシヤビシヤだ」

「手首縛られて、おもちゃ突っ込まれて……でも一人で放置されてるだけなのに、そんなに感じちゃってるの？ 今で何回くらいイッた？」

主人公…わからない

「(からかうように) わからないくらいイッちゃってるんだ？
いやらしいね」

主人公…止めて…

※S E…衣擦れ

【②ややヨリ】

「ん……苦しいの？ でも俺が止める事はできないよ。今日はそういうお客様を想定しての指導なんだろうし、そもそも担当は俺じゃないし」

／＼海杜、主人公の顔に顔を近づける

※S E…衣擦れ

【①ヨリ】※キスの位置より少しだけ引き気味

「けど……もう無理なんて言っても、本当は気持ちよくて
たまらないんだろう？ 今の君、とても淫らで可愛い顔してるよ。
……思わず欲情しちゃうくらい」

／＼以降、主人公を可愛く思う気持ちと欲望から、
つい手を出してしまう海杜

【①Eリ】

「(キス。長めに)」

【①ややヨリ】

「(息をついて)キスも気持ちいいよね。中途半端な快感が辛いなら、もっと良くしてあげる……」

／海杜、バイブの振動をあげる

※SE…スイッチ音(カチッ)

※SE…振動音、大きさを増して継続

※SE…よがる衣擦れ

【①】

「ふふっ、これだけで腰が跳ねちゃうの？ でも、まだ足りないだろう？」

「ほら……君が欲しい快感をあげる。イッちゃっていいよ」

／海杜、バイブを抽挿

※SE…抽挿の水音・継続

※SE…よがる衣擦れ

【①から①ヨリ】

「そう、感じて……好きなだけ乱れて……(深いキス)」

【⑧ヨリ／首の位置まで下がりつつ】

「(頬から首筋へキスを下げていく)」

【⑧ややオノ】

「(胸元に数回キス)……俺が敏感にしてあげた乳首も、痛そうなくらい膨らんでるね……(胸を舐める)」

※SE…よがる衣擦れ

「(胸舐めしつつ)んっ……出ちゃいそう……っ
「……いよいよ、出しても……んっ、ふっ……」

／＼海杜、追い立てるように挿挿も速める

※S E…挿挿の水音、少し速さを増して継続

「(胸を舐めたり吸ったり)」

【②やや下】

「(逆の胸を舐めたり吸ったり。最後に主人公が潮を吹いて達する)」

※S E…ビクツと痙攣する衣擦れ

※S E…潮吹き音

【②やや下から①】

「(口淫をやめて息をつき)っ……はは、いっぱいだ。ますますビシヨビシヨだね」

／＼海杜、バイブの振動を元に戻す

※S E…スイッチ音

※S E…振動音、最初のものに戻って継続

主人公…意地悪…

※S E…小さな衣擦れ

【①やや上】

「意地悪したかったわけじゃないんだけど……君が可愛くて、つい」

「(バツ悪げに)でも確かに、これじゃルイくんにも怒られるな。」

……ごめん、今のはなかった事にして」

(※個人的な感情でしてしまった事を反省している)

「ルイくんを探して、そろそろ限界みたいだよって言うておくよ。」

それで許してくれると嬉しい」

【①やや上から②やや上/マイクに背を向けつつ】

「じゃあ、頑張ってるね」

／海杜、立ち去ろうとする↓呼び止められてすぐ止まる
※SE…足音・数歩

主人公…待って
※SE…衣擦れ

【⑩やや上／背向け状態から振り返って】
「少し驚きつつ止まってっ、……なに？」

主人公…明日は海杜の日よね？
※SE…衣擦れ

【⑨やや上】
「うん……明日は俺が担当だから、いつもの時間に始めるよ。ここ待っていて」

／海杜、出ていく
※SE…足音
※SE…ドア開閉音

(間)

／翌日、性教育中。正常位でむつま合っている
※SE…抽挿の水音・FI・継続
※SE…衣擦れ・FI・断続的に継続

【⑧やや上】
「(律動の息・FI。少し長めに下さる)」

主人公…海杜とが一番気持ちいい…
※SE…衣擦れ

「(以降、律動しつつ)ん……ふふ、そうなんだ。ありがとう」
「俺とするのが一番気持ちいいって思ってくれるのは、素直に嬉しいよ。
体にはある程度相性もあるしね」

「(悪戯っぽく)でも、他の教育係には言わない事。
勘ねちやう奴もいるだろうから」

※SE…頷く衣擦れ

「うん、いい子だ」

【①ヨリから①ややヨリ】※キスの時だけ寄る

「(額に一回キス)…欲情に正直で、淫らで…可愛い娼婦になったね。
君としてると、俺もつい熱くなりそうになる……」

「もう、イキそうだ……速くするよ……んっ……」

――律動を速める

※SE…抽挿の水音・速さを増して継続

※SE…肌がぶつかる音・継続

【①ややヨリから⑧ややヨリ】

「(律動の息。熱さを増して)」

【⑧ややヨリ】

「はぁっ……はっ……んっ……イ、ク……!」

「(律動の息。昇り詰めていき、達する)」

――二人、達する(律動音停止)

――海杜は主人公をギュッと抱き締める

※SE…抱きしめる衣擦れ

【⑧ややヨリから⑦ヨリ】

「(ギュッと抱きしめてから、射精の際の息)」

【⑦ヨリから⑧ややヨリ】

「(まだ荒い息をしつつ、主人公を見る)」

【①ヨリ】

「(熱く優しいキス。長めに下さい)」

【①ややヨリ】

「(息をついて)……本当に魅力的になった……君は俺が育てた新人の中でも特に優秀な、自慢のヴェロニカだ」

「もう見つけれられてるよね、自分の価値。俺が胸を張って送り出せるほどの存在になったんだから、自信を持って生きていくんだよ?」

主人公…それって…

※SE…衣擦れ

「……うん。昼間ボスを含めた全員で話し合ったんだ。君はもう充分成長したから、買い手を探し始める事になった」

主人公……そう

／＼海杜、主人公を再び抱き締める

※SE…抱きしめる音

【⑧ややヨリから⑦ヨリ】※抱き締めてから耳元で台詞

「(抱きしめる息)……大丈夫、心配いらないよ。」

俺が責任持って、素敵なお客様を見つけてあげるから」

○トラック6

■広間

――数日後。海杜が誘い、二人で紅茶を飲んでいる（向かい合って着席）

※SE…カップを持つ音×2

【②ヒキ】

「おいしい？ タルトも食べてね。街で買ってきた、最近人気のある商品なんだよ」

――主人公、タルトを一口食べる

※SE…カップを置く音

※SE…フォークを手に取る音

※SE…フォークが皿に当たる音

主人公…おいしい

※SE…衣擦れ

「よかった。今日はレッスンじゃないから、マナーは気にしないでいい。たくさん食べて」

主人公…なぜ誘ったの？

※SE…衣擦れ

「久しぶりに指導じゃなく、ただ君の為に紅茶を淹れるのもいいかと思って。専属を離れてからはなかっただろう、こういうの」

主人公…話があるんじゃない？

※SE…衣擦れ

【①ヒキ】

「（一瞬驚いた後、ふっと苦笑する）……… 鋭いね。

人の感情の機微にさとなったのも、指導のたまものかな」

「……当たり前。話したい事があったから誘った」

【①ヒキ】※冒頭の息の時は目を伏せ、顔を上げてマイクを見てから台詞
「静かに一呼吸して）……おめでとう。決まったよ、君の買い手」

主人公…だと思った
※SE…衣擦れ

【⑧ヒキ】
「それも気づいてたか。はは、じゃあもったいつける意味なかったな」

「詳しい事は明日ボスから話があると思うけど、身分も申し分ない大物だ。
安心していいよ」

「たまに期間限定の契約を望まれるお客様もいるけど、君の主人になる人は違う。
君の身柄は彼に引き渡され、不慮の事態……例えばすぐにその方が
亡くなってしまうとか、そういう事がない限り、今後の生活も彼と君の意思に
任せる事になる」

「この洋館から旅立つ時が来たんだ。君はもう、正真正銘のヴェロニカだよ」

主人公…わかった。せいぜいいい暮らしさせてもらおうわ
※SE…頷く衣擦れ

【①ヒキ】

「ああ。思い切り夢中にさせて、いい暮らしをさせてもらえばいい」

「（優しくふっと笑って）すっきりした顔で笑うようになったね。
そういう顔を見てると嬉しいよ、俺も」

主人公…海杜のおかげ
※SE…衣擦れ

「え……俺の？」

主人公…私の価値を見出そうとしてくれる海杜が担当だったから

「そっか……君にそう言ってもらえるなら、俺の指導は大成功だ。
こちらこそ、ありがとう」

【①ヒキ／軽く目線を外して】※少し考えている感じ

「俺が君に、今の自分に価値を見出して、強く生きていってほしいと思ったのは
……まあ、もう最後だし言ってもいいかな」

主人公…え…？

※SE…衣擦れ

【①ヒキ／マイクを見て】

「（苦笑混じりに）別に大した話じゃないんだけどね。君が来た最初の日……
生い立ちを聞いた時に、昔の俺に似てるなって思ったんだ」

主人公…似てる？

※SE…衣擦れ

「そう。施設育ちなんだよ、俺も」

「親に捨てられたっていうのも同じ。それで若い頃はやさぐれちゃって、
自然と普通じゃない付き合いもするようになってね。とある縁があって、
この組織に入ったんだ」

「もちろんこういう所だし、似たような境遇の子が来る事は珍しくないんだけど。
君は何もかも諦めたような目をしてるところも、昔の、鏡に映った自分に
よく似てるなと思って」

「諦めて、自分の体を痛めつけて、こんな自分に存在意義なんてないって
おとしめて……多分、方法は違えど同じような生き方をしてきたんだと思う」

「でも俺は、ここへ来て教育係になって、初めて自分の存在価値を見つけられた
気がした。というか、結局全部自分次第なんだよね。自分の生きる場所を
掃き溜めだと思って腐っていくか、そこからのし上がっていくか。決めるのは
自分で、気の持ちよう次第で、どれだけでも楽しく生きていけるんだ」

「ここで色々な女の子を見てるうちにそう気づいて、俺も変わったから……君にも教えてあげたいと思った」

主人公…そうだったんだ、ありがとう

※S E…衣擦れ

「どういたしまして。だから俺も今、本当に嬉しいんだよ」

――その時、別の教育係がやってくる

※S E…近づく足音

【②ヒキで⑨方向を見つつ】※二人ともルイを見ている

「ん……ああ、ルイくん。どうしたの？ 彼女に何か？」

――傍まで来たルイ、二人に話しかける

※S E…足音停止

※S E…衣擦れ

【②ヒキで⑨方向を見て／「わかった」でマイクを向きつつ】

「あ、そっか……今日のルイくんの指導が最終レッスンになるんだね。

わかった、じゃあこのお茶を飲み終わったら部屋に……（語尾は主人公に遮られる）」

主人公…待つて。それ海杜がいい

※S E…衣擦れ

【②ヒキ／マイクを見て】

「え……俺が？」

主人公…お願い

※S E…衣擦れ

【①ヒキ】

「君……」

「……（優しく）仕方ないな、いいよ。
最後だからね……特別に我儘を聞いてあげる」

【①ヒキで左を見て】※キャスト様から見て左
「ルイくん、俺からも頼むよ。今夜の指導係、俺に代わってほしい。
何かあった時は、俺が責任を持つから」

／ルイ、了承
※S E …衣擦れ

「うん、ありがとう」

○トラック7

■主人公の部屋

／前トラックの続き。ベッドで抱き合っている状態

※SE…衣擦れ・断続的に

【①Eリ】

「(熱いキス)」

／主人公、服を脱ごうとする

※SE…衣擦れ

【⑧】

「待つて、自分で脱がなくていい。俺にさせて」

／服を脱がしながら話す

※SE…上衣とブラを脱がしていく音

【⑧から①ややヨリ】

「(脱がしつつ) いいんだよ、俺がそうしたいんだから。」

……ん……ほら、顔を上げて。ちゃんと俺を見ていて……」

【①ややヨリから②ややヨリ】

「……綺麗だ。下も脱がすよ。(軽く押す) ん……」

／主人公を横たえ、下衣も脱がす

※SE…ベッドに横たわる音

※SE…下衣を脱がす衣擦れ

／海杜、自身も脱ぐ

※SE…上衣を脱ぐ音

※SE…ベルトを外し、ファスナーを下ろす音

※SE…下衣を脱ぐ音

【②ややヒキ】

「(自身が脱いでいる間の息)」

／海杜、主人公に覆い被さる

※S E…衣擦れ

【②から①ややヨリ】

「覆い被さる時の息」……もうこの肌に触れる事はないと思っただけ……最後に、たくさん愛してあげる……」

【①ヨリ】

「深いキス」

【⑧ヨリから②ヨリ間で】

「顔に複数回キス。頬、目尻、額など場所を変えて」

【③ややヨリ】

「……こんな事をしたのは初めてだ。一応模範的で優秀な教育係って言われてて、ルールを破った事なんてなかったんだけどな……」

「(クスッと苦笑し) それだけ君を応援してるんだよ。

……そういう事にしておいて」

【②ややヨリ】

「さあ、どうしてほしいの？ 今日君の望む通りにしてあげるよ」

主人公…胸触って

※S E…衣擦れ

「胸？ いいよ。でももう触られるだけじゃ物足りないんじゃないの？」

／胸の口淫と手淫

※S E…小さな衣擦れ・断続的に

【②ややオノ】

「(胸元に吸い付くようなキスをしつつ) んっ、ふ……」「うして……指と唇で少し乱暴なくらいにいいじられなきゃ、満足できないだろう……？ んっ……ふっ……」

「(乳首を舐めたり吸ったり)」

「(舐めつつ) んん……ほらね……最初から強くされても、すぐ反応する……
本当に、男を喜ばせる淫らな体になった……(舐めたり吸ったり)」

【②やや下から①やや下】

「(息をついて) こっちも触るよ」

／／主人公の足を開く

※S E…衣擦れ

※S E…水音

【①やや下】

「ふふ、ヒクヒクさせて……嬉しい？」

／／秘部の手淫しつつ胸舐め

※S E…水音・継続(小さめで)

【⑧やや下】

「(胸舐めつつ) んっ……クリトリスもすごく敏感になったよね……ん、ふ……。
こっやって、胸舐めながらこっちを剥き出しにしてつまむだけで……」

※S E…よがる衣擦れ

【⑧やや下から軽くマイクを見て】

「うん、気持ちいいよね。イッていいんだよ？ 外いじられただけでも簡単に
イクようになったいやらしいところ、見せて？」

【⑧やや下】

「(胸舐めつつ) は……んっ……さあ、どうぞ……んっ、ふっ……」

「(胸舐め。最後に主人公が達する)」

／／主人公、達する(水音停止)

※S E…ビクツとする衣擦れ

【⑧やや下から①】※冒頭の息のところで上がる

「息をついて（す）いね。見て。俺の手、もう手首まで「フロフロ」

／海杜、自分の手を見せつつ舐める

※S E…衣擦れ

【①】

「（指を舐める）……ん……ふふ、おいしい」

【②】

「君も直接舐めてほしいよね。お尻こっちに向けて、四つん這いになって」

／主人公、四つん這いになる

※S E…ベッドの上で動く音

【④下方】

「こんなに垂らして……お尻の方まで濡れてるよ。全部舐めてあげるね……」

【⑤下方】

「（アナル付近を舐める）」

※S E…よがる衣擦れ

「（舐めながら）んっ……こっちの入り口も、感じるの……？」

んっ……でも今日は、舐めるだけね……入れるのは……

普通に、前に入りたいから……んん、ふっ……」

「もう少し腰上げて……」一番感じるとこ、舐めてあげる」

※S E…少し動く衣擦れ

【⑥下方】

「（クスッと笑って）また濡れてる。ヒタも充血して、いやらしい色だ……」

【⑤下方】
「(秘部を舐める)」

「(舐めたり吸ったり。激しくしていく)」

「(舐めたり吸ったり。最後に主人公が達する)」

／／主人公、達する
※S E…ビクツとする衣擦れ

【⑤下方から④下方】
「(息をついて) あれ、またクリでイッちゃった？」

／／海杜、体を起こす
※S E…衣擦れ

【④下方から⑤】
「(体を起こしながら) じゃあ次は……」

／／バックで一氣に挿入
※S E…水音

【⑤】
「(挿入。やや感じて) んっ……… ほら……中で俺の、
たくさん感じたらいいよ………」

主人公…イッてるのに………
※S E…よがる衣擦れ

「(やや感じつつ) はぁ………んっ………駄目だった………？ イキながら
中をこじ開けられるのも悪くないだろう………？」

「君の内側は、気持ちよさそうにうねってるよ………はぁ………んっ………」

／／ 緩く律動を始める
※ S E … 水音・継続

【⑤から⑥】

「(律動しつつ) はあ……はっ、んっ……ああ、気持ちいい……」

【⑥】

「(律動の息)」

／／ 律動一旦停止

「(息をついて) ……抱き締めたいな。このまま座ろうか……」

／／ 背面座位に以降

※ S E … ベッドの上で動く音

【⑥から⑦ややヨリ／⑦では並行】 ※背後から密着し、顔が横に来る

「(体勢移動時の息)」

【⑦ややヨリ】

「ふふ、近くなった。(抱きしめる息)」

※ S E … 抱きしめる音

「一緒に動こう…… (律動開始) んっ……」

／／ 律動開始

※ S E … 水音・継続

「(律動の息。最初は控えめ)」

【⑦ややヨリ／軽くマイクを向く】

「(律動しつつ) んっ……もっと動けるだろう……？ 深くして……」

「エッチな可愛い」で、俺のをたくさん「すってよ……はあ……んっ……」

／＼律動、少し激しくなる

※S E…水音、少し大きさを増して継続

【⑦ややヨリ／並行】

「はあ……あっ……んっ……いいよ……す」ぐいっ……」

【⑦ややヨリ／軽くマイクを向き、更に寄りつつ】

「君も……たくさん、感じて……」

【⑦ヨリ】

「（律動しつつ耳舐め）」

※S E…よがる衣擦れ

【⑦ややヨリ】

「（律動しつつ）はあ……いい声だ……ほてった頬も、額を伝う汗も、扇情的で……もっと君の乱れるところが見たいって……そう思わずにはいられない……君の主人になる人も、同じ事を思うよ……必ず君の虜になる……」

【⑧ややヨリ】

「こっち、向いて……」

【①ヨリ】

「（律動しつつ熱いキス）」

「はあ……もっと、しよう……」（律動しつつ熱いキス）」

【⑧ヨリ／首の位置まで下がりつつ】

「（律動しつつ頬から首筋にむしゃぶりつくようなキスを数回）」

【⑧ややヨリ】

「（律動しつつ）はあ……んっ……（小さく笑う）ふふ、もう止まらないね……体が、この快感を抑えたくないって言ってる……。君も、だよな……っ」

主人公…うん……！

「いっよ……一回、イ」う……」のまま……」

// 律動を更に激しくする

※SE…水音・やや大・継続

※SE…肌のぶつかる音・継続

「(律動の息。これまでより快感を増して)」

「(律動しつつ) はぁ……はっ、んっ……あぁ……イ、ク……!」

【⑧ややヨリから①ややヨリ】

「(律動の息。昇り詰めていく)」

【①ヨリ】

「(律動しながら熱いキス)」

「(律動しながらキス。最後にキスのまま達する)」

//二人、達する(海杜中出し)

※SE…ビクツとする衣擦れ

【①ややヨリ】

「(キスを解き、射精中の息)」

【①ややヨリから⑧ややヨリ】

「はぁ……はっ……んっ……もう少し……まだ、出てる……」

【⑧ややヨリから⑦ややヨリ】

「(射精しきって荒い息を落ち着けていく)」

【⑦ややヨリから⑥ややヨリ】

「……抜くね。今度は寝ていいよ。(抜く時の息) んっ……」

※SE…抜く水音

／／共に動き、正常へ

※SE…ベッドの上で動く音

【⑦から⑧ややヨリ】

「(体勢移動時の息)」

【①ヨリ】

「(深いキス)」

「(キスしながら)ん、ふ……入れるよ……(キスしながら挿入)んっ、ん……」

※SE…挿入の水音

／／海杜、すぐに緩く律動を始める

※SE…水音・断続的

【①ややヨリ】

「はは、すごい音だ。俺のと君のが、中でぐちゃぐちゃに混ぜてるんだろうな」

【①ややヨリから②】

「(緩く腰を回しつつ)もっと掻き回してみようか。こうやって、

ゆっくり……ぐるっと内側を」すっていったら、気持ちいいかな……？」

主人公…焦らさないで…

※SE…衣擦れ

／／海杜、律動一旦停止

【②】

「(楽しいに)ん？ 焦らしてるつもりはないんだけど……そう言っつて事は、君は焦れてるんだ？」

「じゃあどうしてほしいの？ 言いなよ」

主人公…また奥まで…

※SE…衣擦れ

【②から②ややヨリ】※突く時に少し寄る

「クスッと笑って」わかった。奥までねじ込んであげる……よっ
『よっ』でズンッと深く突く」

※SE…深く突く水音一回

※SE…主人公がよがる衣擦れ

／／海杜、深い抽挿を始める

※SE…水音・継続

【③ややヨリ】

「(律動しつつ)んっ……」うしてほしかったんだろう……？
どう、気持ちいい……？」

主人公…いい……

※SE…衣擦れ

【③ややヨリから②ややヨリ】

「(律動しつつ)はぁ……ふっ……おねだりも上手になったよね……」

【①ヨリ】

「(律動しながらキス)」

／／海杜、一旦律動を緩める(水音停止)

【①ややヨリから②】

「(息をついて)もっとしてあげる……足持っから、もう少し腰上げて……」

／／海杜、主人公の両足を持って開く

※SE…足を掴む音×2

※SE…衣擦れ

【②ややヒキ・やや上】

「ふふ……」うして開くと、繋がってるところが丸見えだ……」

／海杜、ゆっくり挿する

※SE…水音・断続的に

「君にも見えるだろう……？（挿しながら）ほら……ずぶずぶ入って……
ああ、もう根元まで食べられちゃった……」

「んっ……抜く時は……君の入り口が引き留めるみたいにキュウッて
締まるよね……もっと中にいてほしいの？ 可愛い……」

【②から①／ややヒキ・やや上で】

「（ゆっくり挿。控えめの息）」

主人公…また焦らして…

※SE…衣擦れ

【①ややヒキ・やや上】

「ああ、そっか。ゆっくりなのは焦れたいんだっけ」

「わかったよ。その代わり、もう止まらないからね……ちゃんといてきて……」

／律動を速める

※SE…水音・継続

【①ややヒキ・やや上から①へ】

「（律動の息）」

【①】

「（律動しつつ）はぁっ……んっ……「ん」、だろう……？」

「ここを、硬い俺ので何度もガツガツ突いて……イかせてほしいんだよね……？
はぁっ……んっ……」

「いいよ……何度でも、してあげる……」

／律動を激しくする

※SE…水音・やや大・継続

※SE…肌のぶつかる音・継続

【①から⑧】

「(律動の息。激しさを増していく)」

【⑧】

「まだだよ……もっと……んっ……」

／／律動を更に激しくする

※SE…水音・やや大・速さを増して継続

※SE…肌のぶつかる音・継続

※SE…ベッドの軋み・継続

「(律動の息。更に熱っぽさを増していく)」

「(律動しつつ) はぁ……んっ……あぁ、いいよ……俺も……
すく、感じる……はぁっ……くっ……」

「(律動の息)」

「ぶっ……はぁ……くっ……あぁ、出、る……」

【⑧から①】

「(律動の息。昇り詰めていき、最後に達する)」

／／二人、達する(水音停止)

※SE…ビクツとする衣擦れ

【①】

「(射精中の息)」

／／海杜、主人公の足を下ろして覆い被さる

※SE…足をベッドに下ろす音

※SE…覆い被さる時の衣擦れ

【①から②やや③】

「(覆い被さる時の息) ……大丈夫……?」

【①ヨリ】

「(熱いキス。長め)」

【①ややヨリ】

「こうしてる時の君は、本当に綺麗だ……。君の中に出した後は、なんだか精気も魂も吸い取られたようで……。でもそれが、すごく心地いい……」

主人公…ねえ、私の事忘れない？

※S E…衣擦れ

「え……もちろんだよ。ここで一緒に過ごしたのは数カ月とはいえ、君の事は忘れない。君も……俺の淹れた紅茶の味、忘れないでね」

※S E…頷く衣擦れ

「それでいい。もしまたどこかで会う事があれば、お茶を飲みながら話をしよう。その時は、いい報告をたくさん聞かせてくれると嬉しいな」

※S E…頷く衣擦れ

【②ややヨリ】

「ふふ、楽しみにしてるよ。それじゃあ、今日はもうお休み」

【③ヨリ】

「(耳朶に1回キス) 可愛いヴェロニカ……。君の未来を応援してるよ。今まで過ごしてきた辛い時間や退屈な時間の分、これから幸せにおなり。それが、俺の喜びでもあるから」

(シナリオ終了)

ボイス（ミニストーリー） 3種

【①自己紹介ボイス】

【⑨】

「やあ、初めまして。今度館に来る新人さんって君だよな？ こんにちは」

「（ふっと苦笑し）そんな露骨に訝しむような顔しなくても。怪しくない……とは言えないかもしれないけど、怖いお兄さんじゃないから大丈夫だよ。ほら、もっとこっちにおいで」

【①】

「うん、やっとはっきり顔が見えた。（チャライ感じではなく、優しく甘い感じで）……可愛いね」

「改めて自己紹介しておこうか。俺は城築海杜（きづきかいと）。君を担当する事になる教育係だよ」

「ん？ 『教育』って、どんな事されるのか気になるの？
そっか……じゃあ、少しだけ教えてあげる」

【①から③④⑤⑥】

「（艶っぽい息遣いで耳元に顔を寄せる）」

【③④⑤⑥】

「（耳に数回キス）んっ……ちゅっ、ふっ……」

「（甘くエロく囁く）こんなふうに触れて、君がたーくさん気持ちよくなる事をするんだよ。今まで感じた事もないような快楽を、俺が教えてあげる。
毎晩、たっぷり時間をかけて」

「不安だなんて言わないよね？ 俺は君が来るの、楽しみに待ってるんだから。約束の日になったら、ちゃんと会いに来てよ？」

【②ややヨリ】

「うん、と言われ」本当に？ 気が変わった、なんていうのも無しだからね？」

「了承され満足げに」いい子だ。じゃ、約束のシルシ」

【①ヨリ】

「唇に軽いキス1回」んっ。……ふふっ。本当に、待ってるからね？」

【②DL数達成記念用ミニボイス1】

状況・設定…本編スピノフストーリーのような感じ

ある日、性教育（情事）の後、主人公は寝てしまった。

並んで横になっていて、主人公が目覚ますところから

※SE…身じろぐ衣擦れ

【③ヒキ／並行からマイクを見て】

「ん……ああ、起きた？」

主人公…あ、私寝てた…？

【②ヒキ】

「うん。君最後、あのまま眠っちゃったから。俺も休ませてもらってた」

主人公…ごめん

「別に謝る必要ないよ。今日はあれ以上するつもりはなかったし……」

／海杜、距離を詰める

※SE…衣擦れ

【②ややヨリ】

「（少し悪戯っぽく）ずっと君の寝顔見てたから、全然暇じゃなかったしね」

主人公…え…！
※SE…衣擦れ

【①】「ふふ。結構好きなんだ。セックスの後、寝ちゃった子の寝顔を見てるの」

「激しく乱れて、疲れて……でも満ち足りた顔で眠ってるのを見ると、
『ああ、この安息は俺が与えてあげたものなんだな』って……そんなふうに
思えて嬉しいっていうか。俺も癒されるっていうか」

【②】「ただ疲労こんぱいで寝てるのと満足して寝てるのとじゃ、表情が全く違うから。
この子はどんな状態なのかっていうのも、見てたらわかるし。
だから俺の傍で満たされた顔して、安心して眠ってくれてるのは嬉しい」

主人公…なんか恥ずかしい…
※SE…衣擦れ

【③ややヨリ】「（耳付近で囁き気味に）恥ずかしがる事ないよ。
君の寝顔も、すごく可愛かったから」

主人公…今度は私が寝顔を見てやる
※SE…衣擦れ

【②ややヨリ】「え……俺の寝顔……？」

主人公…そうよ。まだ見た事ない
※SE…衣擦れ

【①】「それは……そうそう見る機会はないと思うよ。俺は教育係なのに、
指導後に疲れて眠っちゃってたら情けないだろう？」

主人公…でも見たい

※SE…衣擦れ

「見たいと言われても……はは、まいったな。

そんなふうには切り返されるとは思ってたな」

主人公…見てやる！

※SE…衣擦れ

「（苦笑混じりに）はいはい、わかったよ。じゃあ君は、俺がうっかり眠っちゃうほどの濃密なセックスについてこれる体になればいいんじゃないかな」

主人公…そうする

※SE…衣擦れ

「（一瞬呆気にとられた後でふっと笑う）……面白い子だね、君。

まだ今の君じゃ、俺を疲れ果てさせるにはちょっと足りないと思うけど……」

【①からややヨリつつ】

「とりあえず……追加レッスンっていう事で、もう一回、する？」

※SE…頷く衣擦れ

【①ややヨリ】

「うん。君の成長は俺も楽しみだからね。付き合うよ」

※SE…抱きしめ合う衣擦れ

【①ややヨリから①ヨリ】

「（抱きしめる息の後、キス。キスは長めにください・FO）」

※SE…むつみ合う衣擦れ・キスと共にFO

【③DL数達成記念用ミニボイス2】

状況・設定…本編後アフターストーリーのような感じ。

主人公が屋敷を出る日、荷造り中に海杜が来る

※SE…ノック音

※SE…ドア開閉音

【16】

「やあ。荷造り終わった？」

主人公…もう少し

※SE…衣擦れ

／／海杜、歩み寄る

※SE…足音・数歩

【16から⑧】

「(歩きつつ) そっか。ごめんね、邪魔して」

【⑧】

「もし荷物が増えても大丈夫そうなら、よかったらこれをとって」

／／海杜、茶葉の缶を差し出す

※SE…衣擦れ

／／主人公、驚きつつも受け取る

※SE…缶を持つ音

【①】

「そう、紅茶の茶葉。君が気に入ってたやつを何種類かブレンドしたんだ」

「俺から君へのせんべつ。君には新しい生活が待ってるし、ここでの生活を思い出す物なんて必要ないとも思ったんだけど。俺がしてあげられるのって、これくらいだから」

【⑧】

「どうかな？ 迷惑だった……？」

※SE…首を振る衣擦れ（否定する）

【①】「それじゃ」はマイクから外しつつ

「よかった。しばらくはもつから、ゆっくり堪能して。……それじゃ」

――海杜、ドアへと向かう

※SE…足音

――主人公、「海杜！」と呼び背中から海斗に抱きつく（海杜の足音は停止）

※SE…駆け寄る足音・数歩

※SE…抱きつく音

【①】ややヨリ／マイクに背を向けて

「（驚く息）……！」

【①】ややヨリ／マイクに背を向けているが、顔だけ少し横向いて

「戸惑っているが、隠して苦笑しながらの感じ）……どうしたの？
なんで引き止めたりなんか……！」

主人公…ありがとう

※SE…衣擦れ

「（また小さく驚く息）」

「……おれなんていいのに。その為に、わざわざこんな事を？」

【①】ややヨリ／マイクに背を向けて俯き気味で

「（ふっと苦笑して、独白のように小さく呟く）まったく……最初は感情なんて
忘れたような顔してたのに。予想以上に可愛くなっちゃって困るな」

――海杜、主人公の手を解くと、自身が反転して向かい合う

※SE…手首を掴む音

※SE…腕を解く時の衣擦れ

※SE…振り返る時の足音・2歩程度

【①ややヨリ／マイクを振り返る】※回転の向きはどちらでも結構です
「(右記、体勢変更時の息遣い)」

【①ややヨリ】

「こんな事、教育係としては言うべきじゃないだろうけど……君の指導をするのは、俺も楽しかったよ。だから君にいい買い手がついて今日の日を迎えられて、本当に嬉しいんだ」

【①ややヨリ／軽く目線外して】

「でもなぜか……少しか、たまにはここでの生活も思い出してほしいなんて思っちゃってる。それで、茶葉なんて用意して……」

【①ややヨリ／マイクを見て】

「(苦笑まじりに)おかしいよな。だから……今俺が言った事とその茶葉の事は、誰にも言わないで」

主人公…秘密ね？

※SE…衣擦れ

「そう、二人だけの秘密だ」

【①ヨリから①ややヨリ】

「(唇に軽いキス1回)……これは約束のシルシ。どう、ちゃんと守れる？」

※SE…頷く衣擦れ

【①ややヨリ】

「いい子だ。君は本当に……可愛いヴェロニカだよ」

巻末フリートーク用質問

- ・五〇十分目安
- ・本編と同梱で本編後のトラックになりますので、多少のネタバレはOKです。
- ・ダメヘなので適当に動いたりして下さって結構です。

■最初に、役名【城築海杜（きづきかいと）】と、ご自身のお名前のお乗りをお願いします。

■質問 1

収録お疲れさまでした。
まずは収録を終えてのご感想をお願いします。

■質問 2

作中で特に印象に残っているシーンはありますか？
（楽しかった、大変だったなど、どんな方向でも結構です）

■質問 3

海杜は『教育係』ですが、一夜愛様にも人に教えられるような得意なこと、もしくは人に教わってみたいことなどはありますか？

■最後に、ご購入下さったお客様へのお礼の言葉を添えつつ、締めて頂けますと幸いです。

ありがとうございました。